

解答プリント「中学社会・歴史分野」

■確認プリント

単元:4 東アジア世界とのかかわりと社会の変動

【評価の観点】 ㊦：思考・判断・表現 ㊧：技能 ㊨：知識・理解

解答例	解説
<p>㊨ (1) エ</p> <p>㊨ (2) 建武の新政</p> <p>㊨ (3) 足利義満</p>	<p>㊨ (1) 鎌倉幕府第8代執権の北条時宗である。アの北条義時は2代執権で承久の乱の際、幕府軍の中心として勝利に導いた。イの北条泰時は3代執権で御成敗式目を制定。ウの北条時政は北条政子の父で初代執権である。</p> <p>(2) 建武の新政とは、1333年に足利尊氏らの協力により鎌倉幕府を倒した後醍醐天皇が、1334年に年号を建武と改めて始めた政治である。</p> <p>(3) 室町幕府第3代将軍の足利義満は、1392年、南北朝の動乱を南朝の天皇が北朝の天皇に位を譲るという形で治めた。室町幕府が最も安定したのは義満の時代である。</p>
<p>㊧ (1) 倭寇 0</p> <p>(2) 勘合 ㊧</p> <p>(3) 琉球王国</p> <p>㊨ (4) c ㊧</p> <p>(5) アイヌ民族 ㊨</p>	<p>㊧ (1) 倭寇の中心は瀬戸内海沿岸、九州北部の武士や農民らであった。彼らは集団で朝鮮・中国沿岸に渡り、貿易を行っていたが、交渉がうまくいかないときなどは、海賊的な行為を行うこともあった。</p> <p>(2) 勘合は2つに分けられ、片方を貿易船が持ち、残りの片方の台帳と照らし合わせることで、正式な貿易船かどうかを判断した。</p> <p>(3)(4) 14世紀中ごろの沖縄は、北山、中山、南山の3王国に分立していたが、1429年、中山の尚巴志が統一して琉球王国が成立した。</p> <p>(5) アイヌ民族は樺太、千島列島、蝦夷地で古くから生活していた人々で、独自の文化を持ち大陸との交流もあった。</p>
<p>㊧ (1) 応仁の乱</p> <p>㊨ (2) 戦国時代</p> <p>㊨ (3) 東山文化</p>	<p>(1) 応仁の乱は、室町幕府6代将軍である足利義政の後継者争い、有力な守護大名である山名氏と細川氏の争いなどが原因となり、1467年に始まり11年間続いた。</p> <p>(2) 応仁の乱により室町幕府の権威は失墜し、幕府の勢力は近畿地方の一部にしか及ばなくなった。これに対して実力で戦国大名となったものたちは、分国法により家臣団の統制を図るなどして、勢力を拡大していった。戦国大名の代表が、関東の北条氏、美濃の斎藤氏などである。</p> <p>(3) 東山文化とは、足利義政が建てた銀閣が京都の東山にあることに由来する。</p>